

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 大牟田市立大牟田特別支援学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒836-0896

福岡県大牟田市天道町24番地

E-mail [sien-s@st.city.omuta.fukuoka.jp](mailto:sien-s@st.city.omuta.fukuoka.jp)

Website <http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/yougo>

幼児児童生徒数 男子 63名 女子 49名 合計 112名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～66歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「ひまわりのようにあかるく、たのしく、げんきよく」を学校理念として、ESDをすべての人が質の高い教育の恩恵を享受できるように、持続可能な発展のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びに取り込まれるようにすることと捉え、ESDの実践を通して、同じ社会に生きる人間として、互いを正しく理解し共に助け合い、支え合って生きていく力の育成を目標とした。

具体的には、「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する態度」「つながりを尊重する態度」を柱に、①市内学校間交流、②居住地校交流、③国内外学校間交流に係わる学習を行った。

### ① 市内学校間交流

市内学校間交流は、天の原小学校と小学部の交流、宮原中学校と中学部の交流、天の原小学校・宮原中学校・小中学部の交流、有明高等専門学校と高等部の交流等がある。

天の原小学校と小学部の交流では、七夕飾り交流・なかよし交流・みんなで遊ぼう交流の年3回の交流を行った。

天の原小学校・宮原中学校・小中学部の交流では、七夕交流を年1回行った。

有明高等専門学校と高等部の交流では、音楽交流会・作業交流会を年2回行った。

本校の児童生徒にとっては、人と関わる大切な機会となり、対人関係の経験を広め、社会性を養い、好ましい人間関係を営む場となっている。交流校の児童生徒にとっては、障害のある子どもたちへの理解と認識を深めるとともに、自らの生き方に気づく貴重な機会となっている。

## ② 居住地校交流

居住地校交流では、児童生徒が居住する小中学校と交流を年1回から3回程度行った。学級活動（学級遊び等）や図工（作品作り）、給食等で交流を深めた。

本校の児童生徒にとっては、地域社会の中で積極的に活動し、地域の同世代の子どもたちとの交流等を通して、地域での生活の基盤を形成することができた。また、居住地校の児童生徒にとっては、地域社会の中で、共に助け合い支え合って生きていくことの大切さを学んだり、思いやりの心を育てることができた。

## ③ 国内外学校間交流

国内外学校間交流では、ユネスコスクールである新潟県見附市立見附特別支援学校と作品交流を行った。それぞれの学校の紹介と児童生徒が作成した作品を交流した。



① 天の原小学校との交流



① 宮原中学校との交流



② 居住地校との交流



③ 国内外学校間交流

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 ( 交流及び共同学習 )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

無し
----

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

交流及び共同学習は、特別支援学校学習指導要領解説総則等編において、学校の教育活動全体を通じて、小学校の児童又は中学校の生徒などと交流及び共同学習を計画的、組織的に行うとともに、地域の人々などと活動を共にする機会を積極的に設けることとある。本校では、教科及び領域を合わせた指導「生活単元学習」等を中心に、交流及び共同学習を指導計画に位置付けている。

指導内容については、各交流について指導計画を作成し、交流相手校と十分な共通理解を行い実施している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクール・交流及び共同学習部会を校務分掌に位置付け、教育指導計画を作成し、組織的かつ継続的に活動している。毎月の月行事にユネスコスクール・交流及び共同学習部会を設定している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教育課程の評価項目に、ESDの充実を設けて、学期毎に、教育課程評価を職員全体で行い評価している。年間の評価として、学校評価報告書に記載して、HPで公表している。

（成果） ESDの充実として、コミュニケーション・協力・つながりに関する評価が向上してきている。

（課題） 多様な専門性や地域の人材を活かした連携・協働を行う。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

教育活動を毎日ホームページに掲載することで、ホームページのアクセス数が平成28年度に比べて52倍になり、本校の教育活動が広く発信されている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

大牟田市グローバル人材育成コンソーシアム団体に参加し、グローバルに活躍するために求められる資質・能力を育むESD活動の幅を広げ、学校に限らない広範囲な普及を図り、国際的視野を持つグローバル人材の裾野を広げている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内ユネスコスクールである新潟県見附市立見附特別支援学校と作品交流を行い、連携を深めている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

（交流相手校教師の感想）から

出会うことで相手を知り、理解を深めていくきっかけになりました。その後、実際に会わなくても生徒の会話の中に、大牟田特別支援学校の児童生徒の名前が出てくるがありました。簡単には判断できないのですが、学校生活を見ていると、他者を思いやる気持ちや人権感覚が育っているように思います。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

「ひまわりのようにあかるく、たのしく、げんきよく」を学校理念として、ESDをすべての人が質の高い教育の恩恵を享受できるように、持続可能な発展のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びに取り込まれるようにすることと捉え、ESDの実践を通して、同じ社会に生きる人間として、互いを正しく理解し共に助け合い、支え合って生きていく力の育成を目標として、「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する態度」「つながりを尊重する態度」を柱に、①市内学校間交流、②居住地校交流、③国内外学校間交流に係わる学習を行う。

平成30年度は、③国内外学校間交流において、海外の特別支援学校との交流に挑戦したいと考えている。